

研究会・シンポジウム報告

2014年 12月 26日（火曜日） 定例研究会報告

テーマ： 日本のカメラ産業の競争力・ブランド分析 - 中国・日本の工場（Canon 工場）視察報告を含む

報告者： 望月 宏

時間： 16時40分～18時

場所： 10205 教室

参加者数： 5名

報告内容概略：

カメラ、レンズ技術の基礎知識、技術進歩、日本のカメラ産業が世界の中で確固たる地位を築きあげるまでの歴史的な変遷を最初に説明した。その中でフィルムカメラ時代、日本のカメラ産業が競争力を持ち得て来た理由は、戦前から既に高い水準のカメラ技術が存在し軍事技術として利用され、戦後民生化したこと、戦後一早く距離計連動方式から一眼レフ方式に活路を見出したこと、各社ごとに異なるマウントの存在から共通部品を使ったモジュール化が進まず、レンズとカメラ本体との間の高度なすりあわせ技術が継承されてきたことがある。この結果、他国に対しては高い参入障壁となり、日本の圧倒的な世界市場におけるシェアの維持につながった。しかし、デジタル化時代に入ると、一眼レフは引き続き上記の理由から競争力を維持しているが、携帯、スマートフォンのカメラ機能がコンパクトデジカメの市場を席卷している。これはフィルムにあたるイメージセンサーなど部品のモジュール化が進んだことで参入障壁が低くなったためである。日本のカメラ産業が今後競争力を維持するためには、こうしたオプトエレクトロニクス産業との連携を深めつつ、産業用、医療用、監視カメラなどの関連分野に積極的に進出してゆくことになるとの見方を示し発表を終えた。

なお、中国の電子部品工場と日本の Canon 大分工場における製造実態調査についても報告を行った。

記：専修大学経済学部・望月 宏